



会長 菅原文之
 幹事 佐々木源悦
 会報 佐々木崇光 佐藤静市
 高橋利光 渡辺光悦
 例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2347回例会 2012. 4. 12 No.38

本日の出席率

- ・本日の出席率 100%
- ・前回確定出席率 85%

ニコニコボックス

- ・菅原文之会長 多賀城RC40周年記念式典に参加の会員大変お疲れ様でした。大分寒さもゆるみ春らしくなってきました。お花見例会、地区大会、地区協議会、バトンタッチ例会とビッグな行事が続きます。会員ごぞってのご協力をお願いします。
 - ・阿部賢悟会員 森田一史会員のスピーチに期待します。妻の誕生日にお花をいただきありがとうございます。大変喜ばれました。
 - ・森田一史会員 スピーチです。宜しくお祈りします。
 - ・鈴木彦太会員 本日のスピーチを期待します。
 - ・布施孝之会員 森田一史会員のスピーチを楽しみに。
 - ・阿部泰彦会員 森田一史会員のスピーチご苦労様。
 - ・飯塚仁哉会員 森田ジュニアのご奮闘を祈る。
 - ・及川勝永会員 しばらく休ませてすみません。
 - ・佐々木源悦幹事以下 森田一史会員のスピーチに期待して。
 - ・村上武彦会員 佐々木崇会員 佐藤敬喜会員
氏家良典会員 菅野幸一郎会員 山田直志会員
岩湖正彦会員 熊谷敏明会員 佐々木功一会員
武川毅会員 岩湖栄市会員 杉田広仁会員
秋山茂夫会員
- 以上、ありがとうございました。

会長要件 菅原文之会長

お花見の季節になりましたけれども、今年は1週間位開花が遅れるという予報が出ております。「花より団子」と言うことですのであまり関係ないかも知れません。当クラブも次週はお花見例会となっております。

す。ごぞってご参加をお願い致します。

この花見についてちょっとお話をさせていただきたいと思います。私達日本人は桜の花に特別な感情を抱いております。今、被災地では津波で流されて何もなくなくなった跡に、何万本と言う桜を植えるという計画を立てています。又、津波で生き残った桜を高田の松のように保存して復興のシンボルにしようという計画も持ち上がっていると聞いております。物から心に、被災者に寄添う寄りどころをうつしていってるなと思います。木を植えれば一人前になるまでには10年間の体験が必要だと言われております。10年位は腹の中にくっっているのだと思います。

私達日本人は悲しいにつけ、嬉しいにつけ、桜の下で酒を酌交すという習慣がございます。桜というのは元来山桜のことをさすのだそうです。公然と咲いて公然と散っていく姿に日本人の心がマッチしたものとされております。ワシントンで咲く桜はちょっとわかりませんが、本居宣長の詠んだ歌に「敷島の大和心をひととわば朝日ににおう山桜花」というのがあります。敷島は日本という意味です。日本人に大和心を聞いてみたら、朝日ににおう山桜花だということでしょう。この歌は、太平洋戦争の末期、敗戦の濃厚な昭和18年、日本最初の海軍特別攻撃隊の名が敷島隊、大和隊、朝日隊、山田定隊でした。日本の敗戦につながる唯一のはじまりでもあったと言われております。最初は花見と言えば桜でなく桃の花であり、いつ頃から桜に変わったのかと言うと、時代は豊臣秀吉の時、京都の醍醐寺で大花見会の歌会が開かれ、その時から花見は桜になったと言われております。

もう一つ桜で有名なことがあります。昔、有名な横綱栃錦が好んで座右の銘にしたのが「桜の花の散るごとく」という言葉だそうです。名横綱栃錦は、これまた名横綱若乃花に全勝決定戦で敗れて引退を発表して世間を驚かせたということがあります。これは、全勝

決定戦と言っても力の衰えてきている自分と、上昇してきている若乃花の力量を認めて引退を決意したということの後で言っております。横綱としての重責を託す相手として十分と判断しての引退表明だったそうです。世間は拍手を以て彼の勇断を讃えたということです。桜の花の散る如くの引退だったからでした。このことは、後輩横綱に受け継がれております。桜は日本人にとって潔いということの代名詞になっているそうです。

幹事報告 佐々木源悦幹事

- ・桐生RCより
歌津吉野沢仮設集会所落成式の際の交流に対するお礼状並びに落成式の様子が掲載されている地方紙と週報が届く。
- ・「ロータリアン」誌が届く。
- ・お花見例会の出欠表を回しますのご記入下さい。
日時 4月19日(木) 18:30~
場所 味処「小竹」
会費 4,000円
多数のご参加をお願いします。

今週のスピーチ

森田一史会員

今日は、専門的な我々の分野の話と100周年を迎える当社の話を簡単にさせていただきます。

私の会社、迫ホンダ販売(株)は大正に創業しました。私の曾祖父が登米市の中田町、南方町、米山町あたりから野菜や卵を買って来て町場で売ったのが始まりのようです。100周年と言いますと相当長く、その間には自転車からスタートし、バイク屋、そして今は自動車と取り扱うといったように業態を変えてきました。扱っている製品は、バイク、自動車、汎用も一部あります。ホンダで生産しているコマメや小さなカセット式ガスコンロを使った簡単な家庭菜園用の農機具も扱っております。その他、自動車钣金の方の事故車等に対応する意味でファブリカという、もともと私がやっておりました店舗の方を運営しているという形です。

ホンダの宮城県に於ける販売店は、19法人、48店舗、ホンダ関係のディーラーが自動車に関してあります。今、バイクと自動車は完全に分離しており、かつては本田技研工業という会社でバイクも生産しておりましたが、今は子会社であるホンダモータサイクルジャパンという別会社からの仕入れという形で販売しております。バイクの方はホンダだけではなく、スズキ、ヤマハ、カワサキ、ハーレーというように外国のメーカーも取り扱っている状況です。登米市の中では2社しかバイク屋さんがなく、バイク屋さんの方は半分程のシェアを当社で獲得しております。車の方は、トヨタ、ニッサン、スズキ、ダイハツ、三菱と色々あるのですが、当社の登米市でのシェアは14%です。

先日、メーカーの会長とお話をする機会があり色々とお話をさせていただいたのですが、今自動車業界を取りまく状況は、日本全国で自動車が新車だけで450万台位売れるのですが、これは全メーカーで売れる台数です。450万台位の規模の国は、ドイツです。ドイツは、アウディ、ワーゲン、大衆車ではありませんが

ベンツ、BMWという形で大手の世界的メーカーの4メーカーがあり、450万台位ドイツ国内で売れております。日本国内でも450万台売れていますが、大衆車メーカーが9つありひしめきあっている状況です。

今、世界でも全然車が売れなくてメーカーも非常に困っておりますが、そういった状況下円高の影響でメーカーでは利益が出にくくなってきました。円が80円でやっと限界の利益を確保出来るという状態で、80円以下になるとメーカーとしては相当きつという事です。そのため生産工場を外国にシフトするという事で、現在進めているそうです。かつては先進国で車が売れていたということである程度外国に出した利益を日本に持って帰ることが出来たそうですが、今は外国で生産して外国で販売したものに関しては、利益を日本に持ってこれないということで裁判になっているそうです。これは自動車だけでなく電機メーカーも多いそうです。日本国内で利益を上げにくいということで外国にシフトして、外国で利益を上げても今度は持ってこれないため、本社を外国に移動するしかないといった状況のようですが、メーカーとしてはそれもやりたくないということで、国内の需要を高めるためホンダをはじめ各メーカーがシェア獲得のために必死になって動いているところなんです。

国内ではハイブリット車が非常に売れるようになってきました。エコカーが売れるようになり、日本で売れている中の30%以上を占めております。トヨタ、日産、三菱、ホンダあたりでは色々なエコカーを作っておりますが、エコカーと言っても色々あり、各メーカーの特色を簡単に言いますと、次のようになります。

トヨタはハイブリットと燃料電池の車を作っています。燃料電池は水を電気基板に流し電気に転換します。これは駆動効率が悪いのですが、100%自然で安全。ホンダも開発しております。トヨタのハイブリットは、モーターが発電用と駆動用と2個ついています。そのため効率は良いのですが重いので高級車あるいは重量のある自動車向けです。ホンダの方は、モーターが1つです。重量が軽いのですが、発電も駆動も1つのモーターです。電効率が悪いので小さい車に搭載すると便利です。日産は、電気自動車を作っております。非接触型充電方式を開発しましたが、充電による人体への影響、天候による影響などを考えまだ実用化されておられません。

— 以下、各社の車の特色等の話がありましたが、紙面の都合上、割愛させていただきます。



森田一史会員のスピーチ